



溫故目錄

三

子

2200  
2



門へ 15  
9.200  
2



温故日録卷第四

卯月

更衣

朔日 衣ハ衣カハナキハ宮中所ニ此清衣ヲ  
掃部寮アリシ御殿代清帳代ハ  
胡粉ニ繪シテ壁代ニシテ清衣ニシテ

公事根源 下略禁秘抄ニ云ル帳

惟夏生衣以胡粉畫葦雀冬朽木形云

白襲

更衣代時の衣也表裏ちりききぬの重也桃花云  
白襲といふ綾ハ平絹と表裏白瑩ニカキありて

著寸或を表裏只張四月十月更衣の外ハ暑月シヨケツ著之

青簾

青紫アヲれすれスレも翡翠乃すれとて四月  
一日新ニき清簾スレ以清殿スレの如く云





女をよめたりてはく 河多系と云れハ溢カ  
穴よりと云つて節 渡山吉野山と云く三室山  
と云りたりは時をうけて大物主神と云はるなり  
これ系くはけりらるる三三三三三三三三三三  
Pをる舊事本記よん及作りやうよおなり作り  
は祭ハ貞観乃時よりけりまりきりや 公事根源  
年中行事 哥合よ

りるれと云やうんこのふおはれ神のまうりなり  
は三輪の明神ハ社もなくて祭れ日ハ茅輪と三三  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三  
やーとて里れれもあはまりてはく三三三三三三  
鳥百千にてありてはくやうりやうりてはく本も  
とは各々三三三三三三三三三三三三三三三三三  
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三  
奥儀抄 山岩ハ二代鳥井の内よ

ちのの秋りり其所よあり堀河次郎百首よ兼昌

哥云

束はく多てなつてはく茅やさハ三輪社乃ち三三三  
但神代卷上四十一枚云吾ハ日本国三諸山よ住  
思ぬ故よ即宮と彼處よ宮就居る此大三輪  
神也云云略記之この説の如きを三輪社ありと  
んも 詞林採葉抄ニ云ク太神宮、祢宜部廣  
成撰る古語拾遺ニ曰ク大己貴神 大和国城  
上郡大三輪神是也云云  
新後撰集ニ後成哥云

稻荷祭

同日ハ神社建立れ縁起又まうりハ盤觴  
和銅年中ようりて伊景利山よあつたれは

きりとうや或ハ弘法大師の東寺此門前ト稲  
あひくる老翁よあひのいきくと東寺此鎮守  
勸請ヤされと語り説もゆくとていなりと  
稲と荷とあきりともや 公事根源 延喜式神  
名帳ニ云フ稲荷ノ神社三座下社大山祇中杜倉  
稲龜上社土祖神この神ハ百穀と播一  
みよれよ稲荷とより由ト部乃記よりなり

山科祭

上巳日 びる一ツハ宮道氏此祖神也寛  
平十年より祭ハくまら 公事根源 當日  
使立 拾芥抄 十一月と度度あり

平野祭

上申日 延暦よび神社とハ造立ありて  
貞観よりの祭礼とハ始りてハ上とて弁内  
侍びふ近衛のさしひひく見参と取て内よみ  
つて奏寸臨時乃祭あり五位此殿上人使と此と

ひと湯此舞人きとふ使あり湯幣なく賀茂の臨  
時の祭のこゝ此臨時乃祭ハ寛和元年四月十日より  
はりりる其時代使ハ左湯門權佐藤原惟成なり  
さく免くく一才乃御殿ハ源氏才二ハ平氏才三ハ高  
階氏才四ハ大江氏才五ハ姓乃祖神とてまゝ  
なご一 公事根源 十一月と度度あり年中行  
事哥合小  
林と印月とわんふ人のひ此のよりよゆつとせり

松尾祭

同日今ハ酉日 此祭も貞観年中よりま  
る大寶元年よ泰の都理とつて人よりり  
神殿と建立一きとともや大山咋神乃湯事也  
比叡山此神と同躰とてまゝなり 公事根源  
十一月と二度あり年中行事哥合よ  
二葉さんまのあひあひあつよかりてきまわらん



臺盤所よりつとさるれと葺人よりて殿上の臺盤  
 所のよりまきくと達部つとゆ勢れられづくこと持  
 て御殿のたけりとのある自木の机はまきくと次  
 第小座はけく浄土の浄せりて成をくる不参れ  
 人のよせハ葺人を浄導師の僧まきのりりて  
 佛前れ作法をりり鉢の水をとりりてあせり  
 先沙導師くると仏す公卿次第はすりて芳城  
 膝行していさる成りりて水を汲て灌佛して  
 後礼佛寸導師よせりりてちりり此佛生會は  
 推古天皇よりりりり釈迦如來れ俱毘藍城して  
 されりりりり天竺下りて水とるき尺るよあふ  
 せりりり事とりり也 公事根源 国史仁明 兼和七年  
 四月八日請律師傳燈大法師位靜安於清凉

恩始行灌佛してりり諸寺よとこなり佛生會  
 ハ推古天皇よりりりり灌佛して内裏并りり  
 親王大臣家まきとをりりりハ兼和七年より始也  
 灌佛の布施ハ昔ハ錢を用ゆる成中比りり氏  
 になりりりりりり 花名傳情 布施の儀  
 の貞敷河海よ委新續古今前大僧正慈鎮哥  
 百敷れりりりりりり 拾玉集才四  
 拾玉集才四

雁鳥入鳥屋 同 雁鳥鳥屋籠 鳥屋雁鳥 も夏也鶯  
のちばは雜

也句禰よ 替毛鷹 或ハ五 月

日吉祭 中申日此社ハ松尾乃社に同禰也とよるり  
 長久四年六月八日よりりりり二社の内





葵 一向よみわれ此

二葉草

葵と二葉草 諸葉草

の栢也 八雲  
とふせく 浅形の日此神 鞆は用つるこ世は向日葵  
なつくひく 花成りてあふ草は別也新後撰集  
雜上賀茂經久哥  
神心よそれ名成かきよ三葉草三れくわれ法成たつて

諸葉草

引哥よ

吉田祭

中子日

此社ハ中納言山蔭卿貞觀の比

りい建立して一條院永延元年より一  
官幣をとめてまつる也ゆふ春日の社と同躰あり  
奈良の京代時ハ春日社長岡京の時ハ大原野  
今平安城代時ハ吉田社なりこれ帝都ちこれ成志  
うく御門とすのりちをせたまふやされハ法堂代開白

の法成寺に吉田社と成あつたゆひ一幸ハ貞福寺と

十日社とたりひとせられまるとそをたまふる 公事

子二下子 拾芥 十一月に二度あり年中仍事哥合兼瀬

百にせ成ともや字より此成法とてそのなりたれ神まつる

筑摩祭

初午日

伊勢物語よ

あつたあつたれまつるこせぬはきる紀のふれねん

愚見抄

後成恩寺

云拾遺第十九は上句いつかそ

はくまれまつるこせぬこはり江別筑摩大明神の

まつるハ逢ふる男れ教りて堀をまつてきて女のよこ

於也今業云近江國湖の東に濱邊は且書こ云

名所乃南十餘町道て筑摩此成ありけ村の明  
神れまつるハ四月廿此日也それ村の女も我が男志  
くる教りて土堀を地りて板をこりめとてつてこて  
まつるの場とてまつる男志くる教をわくと耐したらまら

神罰カガツをかゝつとも是するは罪障ツミガサさんげり  
 めたすつひ神カミれが便ツギしちるをむしムシ婦メはら  
 しあまは男オトコをせし事コトをくらげ、大方オホカタの堀ウツリはら  
 つてさつ男オトコれ敷シやど小堀コウツリとけりて大堀オホウツリへ入イふ  
 へてくややせし神カミ慮リはうじきてこらびり  
 ありこれ小堀コウツリのくづきいでイてテ証シをくらきるとかん中ナカ比ヒ  
 よハ常ツネれ鍋ナベとつてさそくそりてテ代カタみ比ヒはさき  
 も終オハりて神カミ祭マツルもたつてテこらかりテ西ニシのへを  
 ちくまるとし哥カははけまるとり筑ツクれ字ジ筑ツク紫ムラサキ統トウ前ゼン  
 こ云クぐいぐいとけと五音ゴオン相通ツツ也也八雲ヤツクモ御抄ミヤウチよく  
 神カミにあり清輔シヨウボ集ツミ寄ヨシ社ヤシ戀コイ  
 六帖ロクテツ長ナガくも小堀コウツリとのとてさそくはれさよつてぬおゆ  
 又源氏玉タマくつれ卷マキの引ヒキ弁ヒよ  
 六帖ロクテツはまはまも莎草セウソウれらるるもささく神カミもぬよの香カ

後拾遺

おひつれはれ神カミのゝあなういつてまはれたつて  
 あふ事コトははれよの神カミはのりさそくをたつたれはよまきり  
 千五百番チヒトイハヒ哥カ合カヒ内大臣ウチナカミ哥カ枕マク後ノチ抄  
 いふさんはれ神カミもつてさそくをくらきるとりてぬおゆ  
 三枝ササエ祭マツル 撰セン吉キチ目メ け三枝ササエ祭マツルハ率ヒラ川カハ祭マツルを不由ユ神カミ祇キ  
 令トウよのせり三枝ササエの花ハナをかりて酒サケ樽ツクリとさる  
 う故コトは三枝ササエれ祭マツルとはり也也これ祭マツルり二月ニ月の率ヒラ川カハの  
 祭マツルとおゆりつてさそくをくらきるとりてぬおゆ  
 くひよのせりは先マヒ其コトと四月シツキの雨アメはりつてさそく  
 率ヒラ川カハ祭マツルハ左大臣サダナカミ是ココ公キミれ建立ケンリツとり口クチ傳ツタひ事コトこた  
 けつてさそく事コト也也此故ココハ令トウよ書カキ淡海タンカイ公キミれえりハ  
 もとく養老ヤウロウ年中ナカトシ養ヤウ覧ランさつれ是ココ公キミれ大臣ナカミハ  
 淡海タンカイ公キミれ曾孫ソウソとすて令トウよ率ヒラ川カハ社ヤシとけりた  
 是ココ公キミれりつて建立ケンリツははる一ヒトつとるるも養老ヤウロウ以前イマ

温故集

よもたててをきる神社也是公此再真一をきると建立  
とり哉くんいとわづらふ三枝とまてこよは三く  
これ宗よよひ一公事根源 年中行事 哥合よ  
きつれぬ三枝の花をたひけてや神代おまよは酒をあら  
神祭 祭大と神事ハ四月よ多きれをかく  
りし一各をさともまつりハ可随其季

齋刺

金葉 かつるまや存此ふきよめて志りよあれがきともえ  
神祇也神まつりなをこはふまつりゆらんとして松竹柳  
なを成さす事也 流布 夏あま一 師説

榊取

榊後拾遺 榊後拾遺の卯月よなれハ神代花をれハ一をまつり  
賢木取ハハはまは祭乃ハ一もはけるこ  
也只榊ハ非夏榊ハ一もはけるこ

和清

白氏文集十九 樂天句 四月 彫天氣 和且清 緑槐  
陰合 沙堤平 源氏胡蝶 けて又さうり 是

卯花

抄物ハ五月雨此異名也卯花をみ得あり  
八雲 新式

八雲 浄説ハ一向ハ四月ハ物也云云 但堀河百首ハ  
基後 哥小

又月清集二 後京極殿 哥小  
山里ハ卯の花をみ得あり小垣ハこゆる山川ハち

集第十ハ春よもよめる 哥あり  
春さハ卯の花をみ得あり 吾越ハ妹ハ垣ハあまよめる

哥ハハかやよもよめる 只連哥ハハ四月ハ用の

短夜 明易夜 明安月

五月待 五月まらハ卯月 宗祇注

麥アキ秋アキ 四月の名也百穀アキこなる生する時成春より其  
月と秋とすくは存合はるるなり又本第ハ  
をるはふ轉れ初了急ゆるも今もと麦秋と云る

麥秋風 後頼家集よ

丈木前大納言隆房卿哥

た秋の風 本下麦秋云て凡は秋あるふもころ不

麥 ころり 一笛

丈木才世五二西行哥云  
も夏へ

牡丹 或ハ廿日草とも和訓 廿日と云るは仍号廿日草也  
と八雲抄抄あるふもころり仍号廿日草也

詞花集は牡丹と云る哥は廿日と云るは仍号廿日草也  
牡丹句廿日あまのりきや秋名とすき草又芍薬成  
詩經乃点はころり云云新式抄物ハ廿日草云  
ハ芍薬此事也牡丹とも云一草二名又二草一名歟  
云々其外異名も名取草千代見草ありする事  
近代用捨寸 毎言抄 但可依作者 宗養句  
おひさ紀や多紫は白ふらよと草

杜若 杜若牡丹哥題 雖兩説  
依景物少 夏入之 新式

葵 細流云葵ハ必日よ向ぬ物也衛足にて身とたたりた  
物也河海抄云葵ハ日よいっひく紫をかきあけて

根を叩く寸をれし孔子曰鮑莊子智不及葵能衛  
 其足モトヲ云云心其比鮑在罪とをん事ありて足と  
 削然ハ葵ハハおこもり葵ハ以葉其もくとカド  
 て用心する故ハ無難鮑は足ハ用心をたてあさ  
 ける詞也文集第十三傾心向日葵カクシテ畧記之衛  
 足乃葵ハニ紫よあすす云云辨引抄云葵ハ朝外  
 時ハ東よひるひ午時ハ南よひるひ酉時ハ西よひる  
 日乃あるかた花が傾とれ也文選廿九陸士衡園葵  
 詩ニ種葵北園中葵生鬱萋々朝采東北傾夕  
 頰西南睇ヒト註李善曰淮南子曰聖人於道猶葵  
 之與カクシテ日カクシテ也 催馬樂ありかし葵  
 也 梁塵愚案抄

葵

葵ハスナ後撰雜ハスナ 葵は五月云云

蓮ハハをわくと云ものも人れらふのこをれとをいとは  
 秋ハあやしき方をいりりいをい人の思つ心こらひら  
 ハ泥をいふはをいふは生れいひよとをいふあり 奥儀抄  
 順和名泥といふ字といひらこいひをいふはをいふは

葵

葵ハスナ 木也新式 澁ウツキ 疏キ  
 こころりも夏也

若楓

青楓ハこころりも夏也  
 ともあり 流布

若葉

春夏有兩説加花者為春然而夏  
 季木切之間可為夏云云 新式 一ノ花

紅葉

葉

夏葉と出りてあはれ成るを

茂

草木もよまきるといふ夏也三月よりくるまひらけふ

茂合林下葉

も夏也 流布

木下閣

非夜

青木立

每言抄嫌詞よ出せり六百番哥合ニ季経

常盤木落葉

郭公

鶯花藤霞あはれむとひくも夏也杜鵑ハ弥生の

四手田長時鳥

多し公事連哥よさうりて 流布  
千五百番哥合ニ家長哥云

常盤木第八前大納言忠良

五月ぬのさうり此月のあはれもあはれあはれし時のあはれを  
明題  
あはれもあはれし時のあはれを  
あはれもあはれし時のあはれを

蝙蝠

夜分也又源氏紅葉賀よかり此えたるるを

少納言記よむひりて云 是ハ扇の事也又清

魚乃さしめる扇也共よ夏也新撰六帖一衣笠内大  
臣哥云

日さるれは花ふくはれあはれ風のすしりかり  
和泉式部家集よ

人ものなくもあつてん鶴もいはいらなりも君もさうめん  
つらさしくもさふえぬ鶴もいはい伏羽異そらけりらる  
右三首ハ只蝙蝠乃哥也拾玉集第三三がりとも

あふりはうもたふと想古ちふらうともなく花まふこ

外花衣 表白 裏青

蟬羽衣

裏乃か死す一此惣名之桃花葉葉小あり  
或ハ表檜皮色として裏ハ青き由と異説一  
まらせし首夏乃哥  
かへんあまらるる

温故日録卷第五

五月

献葛蒲

三日 昔月葛蒲ハ四日也 昔月蓬 同

南殿此階乃東西よりまきこ町乃花紙抄よりまきおま  
くさく四日ハあさるまわ此庭は是を列主殿

寮所こ小きいぬ少く天平十九年五月より詔ありて  
百官諸人悉く葛蒲此薄をりて一をさるんりの

宮中に入らるるすこささるる弘仁式も葛蒲より  
まき花かり三日ハ早且は南殿此前よりまきとあり公

事根源 雲圖抄は圖あり拾遺愚負外上は  
まきといふを艾れま紫よりまきまきわゆるやめめ少也

顯昭云陸奥の菖蒲なり五月五日のうらみと少紀  
こころをたんとくといひきく之を扱えらるるといふは  
こころをたんとくといふは名もたんとくといひくうらみと  
伊勢のうらみをいはずおとといふことくは陸奥よこ  
もはかつといふたありあ月あ日よも人の家よあま  
とあてらるるぬきとくといふとあてらる彼困りハ  
ひー菖蒲のありきとくといふとあてらる猶袖  
中抄よ委拾玉集才ニ慈鎮の哥よ  
東海や世はのろきとくといふとあてらるる

菖蒲

ハ五月五日  
よかきく

枕

夜分  
なり

薬玉

五日五月玉 其の群臣小薬玉はたふみふは  
系とりてひらぬくまハ悪鬼をとくぬこり本  
文ゆふや 公事 内侍薬玉は太子以下は

町とくを右に殿よおけけく左に服一多きて二の次  
とくけく腰よひひく各拜節 すう也 云云 花鳥至  
徳記云内裏よハ絲取しり薬玉を獻ず去年  
九月九日よ御帳乃左右よ茶更代麩をけけ沙前  
小菊瓶を置しを撤去して薬玉よ取く九月ま  
てこき置也夜御殿乃御帳の東北柱に付之  
云系羽ハ宋女町北よあり今世母ハ皇子以下  
小児乃付むり袖に繫取為授悪鬼也五色乃系し  
て一多きびとび花也異朝よとあり事也 荆楚  
歳時記風俗通一名長命縷一名續命縷一名辟  
兵縷なるといふは此事也延命ハ祝也其外さぬ  
く小いつらば薬玉を玉ぬきあやめとよある哥をゆり  
那公あやさ月の玉うけとよあるも是をいひ  
きくらくとら乃玉とよあり其證 康和二年五



月五日仲實朝臣家哥合一堀川院中宮

上総 ま本六 あつこよとくしりたが落しきふあひさきりたむとぬさととあきる

雲圖抄の藥徒とくきり

騎射 五日 大將射手此奏さるる左右近衛馬に乗て

源 是ハ古今をたんとすもあはれんをともあはるるの

ひまらひのりちのあはれん五月豊樂院として昔ハのり

弓と淨覽と一なり 年中行幸哥合注 下略

藥日 六帖一費之平之惠慶法師家集夏哥よ

五月五日とハ藥日といひく一切此藥をハ此日取世諺同答

競馳 五月五日よ百草摘事也 三智抄 競狩ミコサ

或ハ五月五日よすの狩也 萬葉集第十六よ

藥獵ともいり同義也 同第十七よ

杜よまふよすのけきまきまきとのまきまきひらする月ひきたる

端午 きふち手紙を食事る昔高辛氏此愚子よ

月又日よ舟よ乘て海をわたり一吋暴風俄よ吹て

浪よ志つとをるが水神と成て常よ人とかなぐらん

あつこ五色ハ系張としてちりたとして海中よか

をへしハ五色此蛟龍となるるをさしりして海神

人とかなぐらんまきまきまきまきまきまきまきまきまき

多りまきまきハ屈原の泪羅よまきまき魚腹よ死勢

と祭一吋此供物もパノヤ 公事根源 歳時

雜記をくよ端午

粽子名品甚多

單文集

左右近馬場騎射

五月三日ハ左近ハ荒手結也四日ハ右近ハ荒手結也五日ハ左近ハ

真手結也六日ハ右近ハ真手結也 袖中抄昔ハ

左右近ハ馬場ハ騎射ハ事ハ仰リヤ

射手ハ大將ハ大將ハ事也公事

根源 後頼朝臣法性寺入道殿ハ五月五日ハ

心法詠テキル

カウハ孫モ花ノ花ニシテキル也キルヤマモハハハハハ

真手結乃日とひかり此日ハハハ也惟清抄云是

とひかりの日とひかりを真手結乃日舎人ハハハハ

引折テ着テ故ハ引折日ハハ云也荒手結

ニハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

度一ハ真手結とひかりと云也賀茂ハハハハハハハハ

度一ハ競馬ハ色掌と用テハハハハハハハハハハハハハ

歌ハ一難義ニテ秘スルヤハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ





その水鏡 藤原長能

白妙れとよみくくはらりしとていひて神の宗なりけり  
今よりハあつらふ海もまた花の都は岸のさきも川  
此年一或人云よの中さつりつてゆきれハ船恩乃水よ今  
宮にふ神を祝ておしやきも神馬もりけとま云結ると記す  
蟬始鳴 月今よハ夏至節ニありと天慶二年二月貫  
之家哥合初夏れ哥よとよめり  
うかこ夏めくくつせはなもあはれはるるしじ

水草ノ花 夏也

萍花 夏也

花薦 能月ガ哥枕云ろととハこり成  
ふこもれ花と花ふとこつふ

薦川 夏也只真薦こころり  
ハ雜こつり 流布

藻花 塩海ハ藻よハあつ河上ハ  
いつもり花こつり 雲御抄

花又藻

和布川 夏也若和布ハ春也和布ハ雜也 新式  
かやりの事其月くり部引をてし

水葱花 古余伎我花

百合 新撰六帖ハ野ハゆり花こつり 万葉よ  
こゆり花源氏林ハこゆりえをともつり

紫陽草 此比良花ハも螢たよよ合たり拾遺愚草上  
あつさの下紫よすつて螢とハよひれ敷のそつと

通改

未摘花

花ハ未トリキハヤツテスルハ未摘花トヨリ頭註蜜勘新撰六帖ノ紅の未キ死ル

忘草花

花ナクハ雜也流布住吉代景物也八雲御抄

也云毛詩伯兮篇認草乃注通釈

海抄云毛詩云北堂栽萱草能忘憂也云云又河

也今ノ神供トビ草トシテ供ズ云云花鳥

餘情ノ忘草ハ忍草ノ一名也又萱草ト忘憂

草ト云ハトシテ忘草トモハハハ相遠

夫ナリ猶奥儀抄袖中抄ナリ

早苗

カトナ

田歌

田植

植物ト越々嫌

田草取

引とも藻蓋草ハ六月ト云

とも又月日ヨリ合セテ多

若苗

若早苗

初苗

カヤレ事ハトシテ不及注スルナリ

松虫七月の部ヨリハ松虫ハ初

類ト云々事トシテ自余准之

乃ヨリトク川ト六月也カヤレ

乃ト云々何を則又別ハあ

但三月ヨリトクハ初若乃詞ハ未

三月... 初月... 但先例は... 其中は初と... 部立... 只花ハ三月... 相遠... 只時節く... くれひ... 童蒙... 人...

初氏

内膳司供早氏ハ廿月の四日  
山城國御園二所供也拾芥抄あり

若竹

竹若葉 竹若緑  
今年生竹

橘

ハみ月と本こと一ニ云  
櫻とじすいとも夏也

常世花

後鳥羽院乃

御哥は二分... 橘

あすは是ハ春花也... 橘

柘花

毎言抄 柘こそくハ雑也

荆棘花

木也花... 流布

棟

音ハ練歳時記云凡一年中花信風二十四番始  
于梅花終于棟花曰日本俗作棟或名曰雲

見草也

梅と凡... 宗祇

一ノ雲

青梅

不好詞  
也云云

臘梅

金葉集

極致集五

梅... 梅...







...をたつるきつらなれば...  
題ハ四月一日奏氷水とつり公事根源云昔仁徳天皇  
の御宇六十二年五月は額田大中彦皇子鬪鶏  
野と云取は狩し出給て山より野中をた  
まはし六菴をたひたる様ある所三人をたひ  
て見せ給ふ窟也とり其時かの山にありは人  
たつてとくせ給ふは氷室なりとり皇子の  
その氷をたはし給ておさめたるある答て云土  
派一丈あり堀てくさばそのくさ小膏て茅蓋  
なり厚敷敷てくさつりとをたひ給ふ氷てい  
やう大澤はともくけど是を取て熱月よりわ  
こたへん其時皇子は氷と仁徳此聖乃御門に奉  
給ききハかののたひは穀感と一由でまて文  
よとのせしは是氷とせ給始其後季冬とも是

おさめて固くあつて氷室と置き給也

堀川百首は氷室此哥云仲實

此をたひ給ふたふちちおさめたる氷室を今もたはせし  
氷室乃を取ハ清輔初学抄をふんたり夫木中勢親王  
いみへたはたをたひたりそれなりや氷室は清膳たてたり

氷膳物 熱月をたは清膳を氷  
と用は給ひのたはし

堀河百首氷室平俊頼

皇れこと此まはせしは氷室よおりの多し  
すてはたはたの水は清膳をふんたりをたひ  
夫木少お内侍哥也同集為總平云

とらきこの氷はたはせしは清膳をふんたりをたひ  
氷水 涼氏常夏は巻も氷水ゆす事たり細流云  
ひや、流る也枕双流よ云いどくあつて書中





茂園臨時祭

十五日

御禊

との儀大なる平野

おの使殿上代五位東遊を

天治元年六月よりゆる又き小走馬勅樂

なりあり天延三年北東遊の奇よ

神代八坂此と今日よりそる千年ハカ

八坂此里といわれ祇園也山城國愛宕郡八坂郷

といふは神社と伝はれらる公事根源

暑日

石踏茂暑川原

夏行歩也藻塩

夕立

夕立暮此字二句嫌新式立の字と小二

夕嫌也夕は五句嫌 垂言抄 夕時分小二句

新式抄 武抄云白雨と書奉ハ山谷グ詩はありて

正字もれも夕此字立の字は二句可嫌義たう新式

は其沙汰るきれハ立此字は五句可去也云不用

立此字は二句は嫌

ハ今さあさあても詮なり

夕は

て

夕立此事ゆり又夕立不可有降物ハ打越可嫌

秋夕の字立此字共は式は可嫌之暮此字ハ

夕時分は五句可嫌夕は清也夕は風

これあさ 垂言抄 朝時分は二句嫌新式抄物ハ

も夕は川を打越嫌は依句神ハ夏

よかろさるかやに去嫌の事ハ

さるさるしては夏あさ 風雅ハ夏哥為兼

夕立 小じとひくおひハ夏の奇ハ

ては夏あさハ垂言抄ハあり一説ハ秋也案す



故越夏之名攘相剋之災故云名越之菰也八雲  
御抄云邪神とつひるこじの菰ゆよなるこじ之  
河辺より一とて麻此紫をとりてするをら夕又  
夜する事也後撰よ

かもし河原をまきこすててる月とゆきてえんや  
題ハみさ月とくしよ河原よまらいてく月乃あつた  
とてといつちあつると六月菰晦月也也こすててる  
月如何らぬ一云定家卿此注云これ月乃あつた  
月之由人疑之古人六月之比必出川原臨菰又納  
涼及絲竹之遊及詩歌之興區例也不限晦日  
稱皆月菰長元比或人記御倉小舎人來可參皆  
月菰之由催之件菰六月十三日也藻塩草云云  
らハ月もゆあつた  
明題  
これ月の月えんとてやまらふしりハまき定家卿とまら

大菰ハ晦日也公事根源云大りへこつた百官しくく  
朱雀門よあつたりて菰とゆふ六月十二月こひ  
る天武天皇此御時よりはりまる解除ハ觸穢を  
この時より神事とゆ時ハ臨時よと常よもあま  
ともこの大菰ハ百官一同よあつたりて菰とすく  
まらハ家よ輪とこゆ事よ

後拾遺  
思ふ事これほこてあま紫とまらよきりてもの  
は哥と詠すしとんこり云延喜式第八よ六月晦  
日大菰此祝詞とるすくはらふ今ト部代家  
中臣菰とつた大同めて首末代云葉小黒也六  
月よ国月あつた菰いけとたなるまんやとふ後乃  
六月よこへこす事東鑑よんこり麻の紫

とさりてぬささしうすすゆへ麻城ささささ  
二り年中の事并合よ

方引れあさの大ぬささささささささ  
官川より流や二回此さささ宗柳

新輪

是牛頭天皇蘇民將來の教へりる遺法  
也疫病もさらん時蘇民將來の子孫也とい

て茅此輪とさけハげ災難とさささこのさささ  
今と枝よ茅此輪と越れ也

新千載入道前太政大臣哥也木木為家  
伊波川をんちれさのりもさささ

年毎よさささのりれ川をれてさささ  
人形也枝するふ人形とけりて身此災難と

形代

人形也枝するふ人形とけりて身此災難と  
さささ川よさささ事あり是はさささ

伊波川さささのりれ川をれてさささ  
拾遺愚草上定家乃事也源氏東屋よ

みく人のささささささささささ  
見ささ川さささあささささささ

千五百番并合よ小作後并也  
あり大原千句よじ那ささをさささ

けこの末よかたかさささ  
小蠅成神

小蠅成神

因太曆云天照大神御孫皇孫命欲為

豊葦原中國主彼國ハ螢火此かやく神及蠅聲  
邪鬼かりとへり假令夏の蚊のどく乱る悪神

のさ也是とささささ六月枝ハす也云云  
衆蚊成雷とさささ事也さささハさささ

権僧正云朝哥云



河社

奥儀抄云、や、これ事、さあ、く、よ、り、め、ま、こ、こ、これ  
い、事、也、是、ハ、夏、神、樂、此、事、也、神、樂、ハ、冬、事、也、  
と、を、の、つ、つ、め、ら、ぬ、事、と、て、夏、を、と、す、る、時、ハ、三、月、  
川、乃、乃、乃、乃、と、す、る、也、川、乃、乃、乃、乃、神、四、本、と、さ、く、  
と、柱、と、さ、く、の、竹、と、棚、と、さ、く、の、松、と、さ、く、の、  
ふ、る、是、と、か、な、り、と、い、ふ、こ、と、て、庭、火、よ、  
新、古、今、六、  
つ、つ、つ、つ、志、の、ふ、あり、と、く、ち、と、衣、つ、か、せ、ら、あ、ぬ、ひ、さ、ん、  
こ、い、奇、と、い、ふ、こ、い、作、法、夏、神、樂、此、譜、よ、り、  
神、樂、此、家、よ、秘、す、事、也、是、多、忠、方、が、説、云、云、下、畧、  
猶、神、中、抄、よ、さ、あ、く、此、事、あり、夏、  
神、樂、非、夜、分、水、辺、なり、師、説、

雲峯

陶淵明、四時詩、云、春、水、雨、四、澤、夏、雲、變、奇、峯、  
秋、月、揚、明、輝、冬、嶺、秀、孤、松、と、古、文、前、集、よ、り、

と、り、六、月、照、日、此、時、分、よ、白、雲、此、空、よ、か、さ、を、り、て、高、し、  
峯、此、や、う、な、る、也、夫、木、第、廿、一、衣、笠、内、大、臣、哥、  
水、月、月、よ、た、り、ぬ、と、い、て、大、を、よ、わ、や、と、い、峯、此、や、の、  
い、奇、判、者、光、俊、朝、臣、云、夏、雲、多、奇、峯、と、い、詩、  
と、い、ふ、事、と、い、ふ、也、略、記、之、

薰風

六月、よ、く、涼、風、也、薰、風、自、南、來、と、古、文、前、集、  
と、い、ふ、り、孔、子、家、語、曰、昔、者、舜、彈、五、絃、之、琴、操、  
南、風、之、詩、註、云、南、風、之、薰、今、  
可、以、解、吾、民、之、愠、今、云、云、

涼

涼、と、云、詞、清、き、事、よ、い、ひ、を、り、て、ハ、夏、よ、あ、り、す、と、  
い、詞、証、を、り、只、納、涼、よ、を、り、て、ま、ら、る、可、利、  
月、露、網、代、鴛、鴨、か、つ、り、冬、の、  
云、詞、を、り、い、じ、と、い、ハ、夏、を、り、自、余、准、之、  
乃、小、と、涼、き、と、

泉 泉殿も夏也 流布

清水掬 清水掬も夏也 流布

沈良之井 堀河院百首 俊頼 泉哥

定家 水色納涼と云題よりあり

又紀伊國曝井と云名所もあり

雜也哥ハ萬葉第ナ又丈夫は

扇 玉篇 作扇 喻月 季

簾 織篋為席 暑月鋪之 順倭名 床上卷收 青竹簾 朗詠をとりて

汗 五言抄は夏此部は出づる 或説は常上人此を

連哥よさやれ差別しぬし只納涼乃心用て夏をり昌程へも相尋也

采奴秋 待秋

秋隣 秋近 秋遠 秋を記しつふ也 同心し夏也

夏景 夏也

耀 白い久しきまは常夏と云り 顯註 容劫 萬葉

六ごころあつと四時羨こり夏秋ハ哥 但冬もよゆり後撰集第 十四云 源ありわさしれ物ト十月もらみこなるとわら

してきて竹をれと

冬をれとまの地が小くはぬ色いびとこまのりかつとま

春ハ足とくと又拾遺愚草上冬ノ哥云定家

花とゆのたれあのを枯一花にけるをゆとなてーこ

石竹 萬葉に石竹の二字はやま

かてーこ又只るてーこも息をり

夕顔

ー宿

植物也新式花となてし夏

瓢花

木茅卅六俊頼

いさこ花さけるきーまにまをわううまのぼろくもるか

凡

麻

櫻

花は梅に似るて顯昭云さくあささけ麻乃  
くねとあられた中よすうーんすーの色われ

あされ河とこれと櫻麻こハま綺語抄云さくあさこハ

ゆさこの中よ様とこーあさう流云之奥儀抄同之

以上袖中抄 不載異説取要記云

奥儀

玉卷藪

葛れろれたものやまましたすくまハつて  
抄六月也藻塩草或説四月にたり

射子

一名ハ烏扇 本草 西行家集よ  
ふらふらさう事なれや庭の面ようすあまあそとら

藍刈

あわとくららも  
夏也花ハ秋也

藍干

たしも夏也新撰六帖よ  
衣笠内大臣哥云

くらゆらる饒磨れ里よわとあわれつとひのちよあへれ  
ふりまればとゆふはらあわとけけ河あさうれこまあそとら  
なうとら同集よ信實哥かり

蓮

ー系



あつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの  
いづりかあきと去りよ 哀草はけわぬ管とありとせし心敬  
いづりよゆをけり管死らんと云ふよ  
いづりよゆをけり管死らんと云ふよ 宗祇 引むとみり一人か  
よゆをけり管死らんと云ふよ

練雲雀

河内カワチから引れ糸の移りいづりよりヒキ管死ありとせし  
ゆりいづりよ毛をけりと移るを引ヒキ乃糸と  
いづりハ経緒ヒキ此事也定家三百首此注よるなり

鶺鴒ニガリ鷹トカ

六月ヒツキ代キあつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの  
いづりよあつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの  
あつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの

あつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの  
いづりよあつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの  
あつくりとつらと二首より小堀河百首の哥くらぬわりの

